

# 『 ノーベル文学賞! 』

2019. 10. 15  
美幌町図書館長 竹花 史康

今年のノーベル化学賞は、吉野彰氏に決まり日本中が歓喜に沸きました。吉野氏の発明したリチウムイオン電池が、これからの未来を大きく変えていくことを知り、多くの人々が同じ日本人として誇りに感じたのではないのでしょうか。

昨年のノーベル文学賞は、選考委員会の不祥事で見送られたため、今年2018年と19年の受賞者が2人同時に受賞することとなりました。今年こそは村上春樹氏に間違いのないと思っていた人はかなりいたと思います。もちろん私もその一人ですが・・・。

しかし、村上春樹氏の名前が毎年候補に挙がり続けていること、少なくとも国際的に最も評価の高い日本人作家の一人であることは間違いのないことです。

ただ、村上春樹氏を絶賛する人たちも多くいますが、大御所の作家や評論家の一部に批判的な方がいるのも事実です。そのことがノーベル賞に影響していると分析する評論家もいるほどです。

デビュー作『風の歌を聴け』、次作『1973年のピンボール』が2年連続芥川賞の候補になりましたが、その評価は大きく分かれ、ある大物作家（選考委員）が強く反対したため逃したという逸話も残っています。世界的な作家となった村上氏が2回にわたり受賞しなかったことは、後に芥川賞選考の批判的にもなりました。

大きなスキャンダルで混乱したノーベル文学賞ではありますが、来年こそは日本人作家が、個人的には村上春樹氏が手にすることを切に切に願うばかりです。

